

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。

卒業にあたり、この中高6年間で振り返って皆さんはどのように感じているのでしょうか。いろいろなことを学び経験し、心身ともに大きく成長したことは間違いないと思います。中学1年の総合学習で、私は皆さんに「自分が何者で、どこへ向かうのか考える6年間にしよう！」という話をしました。そして、それが勉強することの意味だということをお伝えしました。6年たって自分がどのような存在で、どこに向かうのか見えてきましたか。ほとんどの人がまだまだ道半ばなはずです。是非、次のステップでこのことをもう一度意識して過ごして欲しいと思います。

ところで、先日行われた北京冬季オリンピックで印象に残っていることが2つあります。一つ目は、フィギュアスケート男子の羽生結弦選手の言葉です。彼は残念ながらメダルを獲得できずインタビューで「報われない努力ってあるんだな」というような発言をしていました。そして、「人生って報われることがすべてじゃない」とも言っています。これを聞いて皆さんはどう感じたでしょうか。ムダな努力はしないで、楽に効率よく生きたいと思いませんか。果たして、彼の努力はムダだったのでしょうか。

6年前の入学式で私が話した、元メジャーリーガーのイチローさんの言葉を思い出してください。彼はこんなことを言っています。「ムダな経験というものはない。何かを成し遂げようとするときに近道はない。ムダなことをしたとか、遠回りをしたと思うのは後で感じることで、何かに到達したときの深みが違う。」私には、このイチローさんの言葉が羽生選手の発言に対する答えになっているように思えます。

皆さんは、高校3年間のうちほぼ2年間をコロナ禍のなかで過ごすことになってしまいました。思うように行事やクラブ活動ができなかったかも知れません。しかし、限られた条件の中で開成祭を実施したり研修旅行に行ったり、そして、いままで普通にできていたことの大切さを感じたりすることができました。この経験こそムダではなかったでしょう。

2つ目は、オリンピックで活躍した選手には、信頼できるコーチや目標とする選手やライバルがいるということです。例えば、スキージャンプ小林陵侑選手の葛西コーチ、スノーボード平野歩夢選手の憧れであったショーン・ホワイト選手がそうです。いくら才能がある選手でも独りよがりでは成

長は望めません。客観的な視点から選手の特徴をとらえ、良い点や改善すべき点を指摘してくれる存在は重要です。また、自分の目標となり超えたいと思える存在は大切です。

皆さんは中高 6 年間で多くのことを学び経験しました。しかし、この世界は広くまだほんの僅かなことを知ったに過ぎません。まだまだ学び続けることが必要です。未知の世界に触れ新しいことにチャレンジしていきましょう。次の新しいステップでも、自分を成長させてくれる良い師やライバルとの出会いを求めていきましょう。そして、「自分が何者で、どこに向かうのか」を追求していきましょう。

逗子開成の教育の原点は、校名の由来ともなっている「開物成務」にあります。これは“人間性を開拓・啓発し、人としての務めをなす。”という意味でした。この「開物成務」の精神に基づき、高い目標を掲げ、困難にあっても挫けることなく、自分の未来を切り開いていきましょう。思うようにいかないとき、苦しいときには中高 6 年間一緒に学んだ友人や先生方、家族のみなさんなどが支えとなってくれるでしょう。そして、自分自身の幸福を追い求めるだけでなく、社会に貢献できるような、人に何かを与えられるような人生を歩むことを期待しています。逗子開成の 6 年間で学んだことや体験したことは、全て皆さんの大きな力になると信じています。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご息のご卒業、本当におめでとうございました。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。今年度の卒業式も、コロナ禍の影響で通常より簡素化し出席者も制限させていただきました。しかし、教職員一同、卒業生に対するお祝いの気持ちに変わりはありません。

それでは、卒業生の皆さん一人ひとりの旅立ちを祝うとともに、これからの健闘と活躍を祈り式辞と致します。卒業おめでとう。